

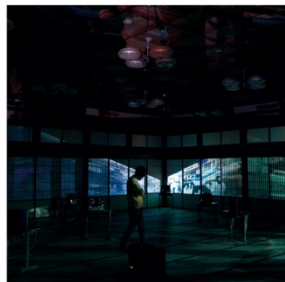
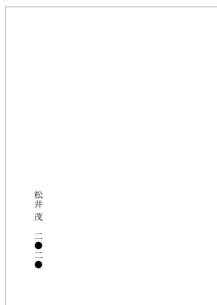
今年度の活動

3 月から再開した Facebook で詩を発表し、7 月に詩集『二●二●』を刊行。声楽家、太田真紀による CD「松平頼暁 声楽作品集」に「時の声」(2013 年)が収録。松平頼暁《ローテーションⅢ》が、低音デュオによって初演。作曲家、檜垣智也による CD に、「入院患者たち」(2016 年)が収録。川本真琴プロデュース無観客生配信「宇宙の竜宮城と人魚」に詩を提供、書家の下村奈那とのコラボレーションを発表。

科研費「マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究」(JSPS:17K02368、代表)が 1 年延長し、昨年度の国際日本文化研究センター共同研究「マス・メディアの中の芸術家像」を踏まえて、2011 年以降の研究論文を整理し、書き下ろしも含む、『虚像培養芸術論』をまとめた。

本書は、現代芸術がマス・メディアを分母とした表現活動を再配置し、テレビジョン＝「虚像」が想像力とされた時代の作家像、作品概念を、現代の視点で分析することを主題とした。マス・メディア(放送文化と出版文化)を介してはかられる領域横断は、芸術家相互の新たなネットワークを生成し、旧来の制度化された芸術諸分野を解体していた。「虚像の時代」を問い直すこと、つまりオールド・メディア成熟期をテーマにすることは、ニュー・メディア成熟期を迎える現在の批判理論に繋がると考えた。本書のリライト作業および、研究の検証に多くの時間を充てた。

学内の活動は、授業等研究指導の他、研究委員会(委員長)として、プロジェクト研究、個人研究の統括、紀要の編集にあたった。



作品

[詩集]『二●二●』enginebooks、2020 年 7 月

[CD]「松平頼暁 声楽作品集」ALM、2020 年 7 月(「時の声」収録、詩の提供)

[初演]松平頼暁《ローテーションⅢ》トーキョーコンサーツ・ラボ、2020 年 12 月 23 日(詩の提供、<https://youtu.be/kpz78pgeXKo?t=1282>)

[CD]『檜垣智也 | 入院患者たち』enginebooks、2021 年 2 月(「入院患者たち」収録、詩の提供)

・[LIVE]川本真琴「宇宙の竜宮城と人魚」無観客生配信、2021 年 2 月 23 日

書籍

『虚像培養芸術論 アートとテレビジョンの想像力』フィルムアート社、2021年3月

寄稿

- ・「大戦の後冷戦。湾岸戦争詩以後、再びポスト・モダニズム？」『現代詩手帖』2021年5月号
- ・「伝説の検証としての研究から新たな関係性としての解釈へ」(書評:堀江秀史『寺山修司の一九六〇年代 不可分の精神』)『週刊読書人』第3339号、2020年5月15日号
- ・「ゼロ地点から向かいます 放蕩娘たちのストリーク」美術手帖 web、2020年12月 (<https://bijutsutecho.com/magazine/review/22992>)
- ・『Ryuichi Sakamoto | Art Box Project 2020』(commons、2021年3月)の「日詩」の音韻構成。

発表

- ・「アートと地域の協働をキュレーションする」研究会「方法詩の実践と社会との関わりについて」富山大学、2020年12月18日
- [聞き手]「西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト 大木裕之、野口里佳による作品上映&アーティストトーク」札幌文化芸術交流センター SCARTS、2020年11月3日 (https://www.sapporo-community-plaza.jp/crosstalk_vol11.html)
- [パネラー]「岡井隆の〈詩〉を読むつどい」現代短歌、2021年3月14日(『現代短歌』2021年7月号に収録)

社会的活動

- [NHK 番組アーカイブス学術利用トライアル]「メディア技術の諸相を主題とした、NHKのテレビ・ドラマの自己省察的表現に関する研究」(代表)。
- [科研費]基盤研究 C「マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究」(JSPS:17K02368、代表)。

学内の活動

- [プロジェクト]Archival Archotyping、タイムベースメディア・プロジェクト
- [授業]論文研究、総合学A、メディア表現特論A
- [編集]『情報科学芸術大学院大学[IAMAS]紀要』vol.11 2021年3月(112頁)